

二〇一五年五月二六日（池田久安寺参加者一三名）

涼風の四阿に句を推敲す	わかば
満目の緑の中の寺領かな	わかば
満目の緑に染まる心字池	わかば
楼門へ影揺れやまぬ若楓	わかば
石畳覆ふ寺苑の緑かな	わかば
いと小さき大師像立つ泉かな	小袖
鬼瓦忿怒してをる樹下涼し	小袖
心経の合唱満つる堂涼し	小袖
濃淡の緑に染まる古刹かな	小袖
新緑に浮かぶがごとし浮舞台	満天
緑陰に集ひしわらべ地藏かな	満天
奥院へ道は四葩の切り通し	満天
赤とんぼ弘法さまの肩の上に	明日香
若楓洩る影唄ふごと揺るる	明日香
万緑に朱の楼門を仰ぎけり	ぼんこ
薫風裡句を推敲す静心	ぼんこ
瀬の楽に沿ひし参道風涼し	こすもす
悉く寺苑を覆ふ若楓	こすもす

あひ弾きあふは恋路のあめんぼう	かかし
大蟻の踏んまえたちし鬼瓦	かかし
囀りの樹下に行厨ひらきけり	有香
一陣の風にひれふす若楓	有香
金色の九輪の尖る青嶺かな	ひかり
十葉や大樹の影を埋め尽くし	ひかり
万緑に染まる池面や鯉躍如	せいじ
楼門の四囲悉く若楓	せいじ
万緑裡堂塔伽藍鎮もれる	はく子
鳥語降る青葉若葉の寺庭に	はく子
老鶯の四方に飮す浮御堂	つくし

吟行句会みの選

二〇一五年五月二六日（池田久安寺参加者一三名）